

「運命の歌のジグソーパズル」読みました。

お登紀さんと出会った**50**年間がいきいきに蘇ってきました。

**1968**年初に藤本敏夫さんが同志社大学**5**回生で反帝全学連委員長に就任し東京の明治大学学生会館に行った。

**6**月神田カルチェラタン闘争等の指導者として逮捕され、保釈後**10**月**21**日防衛庁突入闘争を計画していた**10**月にリラ亭に加藤登紀子が行くから宜しく頼むと此春寮に電話があり、リラ亭でお登紀さんに初めて会いました。その夜は京都タワーホテルに泊まるので、ふらつく足で送りました。

藤本さんは**10**月**21**日に防衛庁突入闘争を指導し潜伏中に、リラ亭にお登紀さんが現れ、そこに藤本さんから電話が入り**11**月の闘争で逮捕されるのを決めたらしく電話口でお登紀さんは泣いていた。

藤本さんが逮捕され長期拘留中に、お登紀さんが仕事で大阪や京都に来るときにはリラ亭で会った。

**1969**年**1**月東大安田講堂占拠闘争後は、京都でも立命館大学や京都大学でも民青との内ゲバが激しくなってきました。私は同志社大学の部隊を引き連れて応援に出かける毎日でした。

**1969**年**2**月にリラ亭でお登紀さんと飲んでいると夜の**10**時頃に同志社大学学館から立命館で内ゲバが始まり戦況不利で現場に急行してくれとの電話が入った。私も行きたいとお登紀さんが言いました。危ないから連れていけないと説得しましたが、遠くから見ているからとついてきました。**12**時過ぎに内ゲバは収まりましたが、ホテルは大阪とのことで、そこから**30**分ほど歩いて此春寮に泊めることにしました。藤本さんの部屋が空いていたのでそこに泊まり、翌早朝に相国寺の広い境内を抜けて学生会館の前で、タクシーを止めて京都駅まで運転手に指示して別れました。

**4**月の新生オリエンテーション時期に京都大学で中核派に難癖をつけられたときに「なぜ助けに来てくれないのだ」と駄々をこねられ、翌日に同志社大学の学生会館で羽仁五郎の講演の後に即席コンサートを敢行しました。

**4**月末から**70**年安保粉砕の烽火をかかげ同志社大学は全学無期限バリケードストライキに突入した。しかし、安保粉砕の方法論をめ

ぐって藤本さんなどの指導者が逮捕不在の中で同志社大学の学生運動は赤軍派、関西ブンドのセクト分裂状態に陥り、東京では明治大学や中央大学のブンド各派の内ゲバが勃発し死者まで出ていた。その内ゲバの真っ只中の6月に藤本さんは保釈された。国家権力の陰謀であった。

1969年秋に藤本さんは山本満喜子さんと出会い、キューバ研究所事務局長になり、キューバへサトウキビ穫りに行こうと呼びかけ、1970年4月にキューバに行く直前に、私は前年の烏丸カルチュラタン闘争の指導容疑で逮捕起訴された。

藤本さんは1970年から1971年は目黒の山本満喜子さんの自宅のキューバ研究所を拠点にして、来るべき実刑判決による刑務所収監後のプランを模索していた。私が研究所の事務所に行くと、近くの新宿御苑や神宮外苑に散歩に連れて行ってくれた。そこで、農薬づけの日本農業についてどうあるべきかを話していた。

1972年5月に獄中結婚、お登紀さんは7月に日比谷野音で引退コンサートをするので手伝いに行きました。12月に美亜子さん誕生、1973年3月頃にお登紀さんは生後3ヶ月の美亜子さんを抱いて京都に来ました。お父さんのマンションでリラ亭のマスターと私の前で美亜子さんに母乳を飲ませました。思っていたよりも立派なおっぱいを拝見させていただきました。

藤本さんが下獄後に、大地を守る会をつくったときに手伝いに来ないかと私のマンションに泊まって誘われたが、私の都合がつかず断った。その後、無農薬の野菜を売ることから自ら野菜を栽培することにして千葉の鴨川に移住を考えたころに、私のところに来て、離婚すると言った。私は離婚しなくても両立できる方法を考えるべきだと答えた。その直後に京都の野外音楽堂にコンサートに来たお登紀さんの楽屋で、彼は鴨川が気に入って名前も京都の鴨川と同じだから惹かれたのかな。でも私は鴨川に引っ越すわけにはいかないから離婚すると伝えられた。どうなることかと心配していたら翌年の正月に夫婦で海外旅行に行つたと聴き、夫婦喧嘩は犬も食わぬと安堵した。後で、お登紀さんから「お母さんから彼は貴方の守り神よといわれたから」といわれ、その後、彼が夜中に突然戻ってきて

私の布団の中に入ってきたのよと、のろけていた。

1987年に結婚15周年パーティが鴨川で開催された。私は都合悪く参加できなかった。その後、参加できなかった関西の友人を集めて大阪のロイヤルホテルで結婚15周年披露宴を開催した。

数年後に、藤本敏夫さんのトークショーとお登紀さんの歌でジョイントコンサートのような催しを行っていた。大阪のホテルニューオータニでディナーショー形式のトークショーをやりたいが、費用は200万円程かかるので半分チケットを買い取ってくれないかと藤本さんから相談があり引き受けた。

1992年、藤本敏夫さんから参議院選挙に立候補するので協力してほしいと相談があった。私はやめるべきだと言ったが、彼も周りから祭り上げられて引くに引けない状態になっていた。環境政党「希望」はみどりといのちのネットワーク、ちきゅうクラブ、原発いらぬ人びとで同年7月の第16回参議院議員通常選挙比例区に、藤本敏夫をはじめ9名の候補者を立てたが全員落選した。希望という党名は最近も小池百合子が使ったような気がするが、当時の政治状況は戦後の自民党政治が揺らぎ始めていた頃であった。その後、日本新党の細川政権が誕生したのだが。

2002年7月31日藤本敏夫さんは逝去した。その数日前にお登紀さんは岡山にコンサートに来ていた。楽屋で、病院で藤本さんと話をしていたが、岡山に行く時間になりタクシーで羽田に行ったが渋滞で飛行機に乗り遅れ新幹線で岡山に来た、それならば、最初から新幹線にしていれば数時間病院で話が出来ていたのにと悔やんでいた。お登紀さんのひとときも離れたくないほどの思いを感じほほえましいやら悲しいやら残念な気持ちになった。そのときにお登紀さんは楽屋のカーテンを開けて空を見たいと言った。彼も病室から空を見ているに違いないと。そのとき私は「愛の賛歌」の歌詞を思い出していた。

2018/06/11 小西 桂